

## 調 査 研 究 結 果

種目	道 徳	発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名
観 点	教科書名等  項 目	1 1 ・学図	道徳 7 2 2 道徳 8 2 2 道徳 9 2 2	輝け 未来 中学校道徳 1 年 輝け 未来 中学校道徳 2 年 輝け 未来 中学校道徳 3 年
取 扱 内 容	地域への興味関心	第 1 学年 飛騨の匠の造った家を扱い、地域の人たちが現存させたいと考えたことについて考えるような活動を取り上げている。 第 2 学年 山口県岩国市の錦帯橋を扱い、先人の業績を学び、思ったことを話し合うような活動を取り上げている。 第 3 学年 多摩織りを扱い、地域の伝統文化を受け継ごうとする人々に対して自分がどのように関わっていくかを考えるような活動を取り上げている。		
	命の連続性	第 1 学年 命について、どのようなことを感じているかや「かけがえのない命」という言葉から、どのようなことを連想するかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、本当の友達をつくっていくために大切なことは、どのようなことかを考える活動を取り上げている。 第 2 学年 命を輝かせて生きるために、どのようなことを大切にしたいかや家族や友達、周囲の人たちの命について、どのようなことを感じるかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、いじめやけんかをやめさせたり注意したりすることができないのは、なぜかを考える活動を取り上げている。 第 3 学年 生きることの大切さ、生命の大切さとは、どのようなものかや生命のかけがえのなさや尊さを、どのように感じるかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、本当の友情を育むためには、どのようなことを大切にしていきたいかを考える活動を取り上げている。		
	自己肯定感・自己有用感の醸成	第 1 学年 日本男子 4 0 0 m リレーの朝原選手を扱い、決してあきらめない心とはどのようなものかを考える活動を取り上げている。 第 2 学年 神津カナさんの生き方を扱い、目標を決めて達成するにはどのような心をもてばよいかを考えるような活動を取り上げている。 第 3 学年 福本清三さんの取材を扱い、福本さんがエンドクレジットに流れない無名の俳優でいたいのは、どうしてかを考え、自分の個性とはどんなところかを考えるような活動を取り上げている。		
	生活習慣 (ゲーム・スマホ)	第 1 学年 普段の生活習慣を省みるとともに、心と体の健康と安全を心がけて生活しようとするような活動を取り上げている。 第 2 学年 普段の生活習慣を省みるとともに、心と体の健康と安全を心がけて生活しようとするような活動を取り上げている。 第 3 学年 普段の生活習慣を省みるとともに、心と体の健康と安全を心がけて生活しようとするような活動を取り上げている。		
	情報化への対応	第 1 学年 ブログを扱い、「個人の自由」と思えることであっても、どのようなことを考えて判断するとよいかを話し合う活動を取り上げている。 第 2 学年 インターネットを扱い、相手や自分に誠実であるために、インターネット上のやりとりで、どのような心構えが必要かを話し合う活動を取り上げている。 第 3 学年 インターネットを扱い、匿名での書き込みをする際、どのようなことに気を付けるとよいかを話し合う活動を取り上げている。		
	男女平等	第 1 学年 異性についての理解を深め、それぞれのもつ特性や違いを尊重して、人間性を深めようとするような活動を取り上げている。 第 2 学年 新聞記事を読みながら、セクシャル・マイノリティの人への差		

		<p>別や偏見のない学校や社会を実現するために何ができるかを考えさせる活動等を取り上げている。</p> <p>第3学年 水俣病患者に対する周囲の人の反応を扱い、不正を正し、よりよい将来に向かう社会を築くために普段からどんなことを心にとめておいたらよいかを考えさせる活動等を取り上げている。</p>
	いじめ問題への対応	<p>第1学年 博史のブログを扱い、どのような判断や行動が問題だったのかを考えるような活動を取り上げている。</p> <p>第2学年 傍観者でいいのかを扱い、学級の中でからかわれているのを見てもなぜほとんどの人が何も言わずに何もせずいたのかを考えるような活動を取り上げている。</p> <p>第3学年 「僕たちがしたこと」という作文を扱い、転校していった野口くんのことをクラスのめいめいはどんなふうに捉えるべきだったかを考えるような活動を取り上げている。</p>
内容の構成・排列、分量等	教材	<p>第1学年 35（読み物34、その他1）</p> <p>第2学年 35（読み物34、その他1）</p> <p>第3学年 35（読み物34、その他1）</p>
	教材数	<p>第1学年 8（読み物5、コラム2、その他1）</p> <p>第2学年 8（読み物5、コラム2、その他1）</p> <p>第3学年 8（読み物5、コラム2、その他1）</p>
	議論を行い自分との関わりで考察できる工夫	各学年に、道徳的問題について考えを出し合う教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。
使用上の配慮等	家庭との架け橋となる工夫	「学びの記録」ページを設け、生徒が書き込みをした教科書を持ち帰り、学校での学習を家庭と共有することができるようにしている。各学年共に巻末には、「保護者の方へ」のページを設け、学年の学習内容を解説しており、家庭教育との連携を図ることも考慮している。
	地域の人々との連携や地域の行事との関連を図った学習活動の充実	社会生活の中で「生きる」ことをテーマに情報化への対応、情報モラル、社会参画を扱う教材を用意し、学習したことが日常生活へとつながるように配慮されている。
	自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つめたりする工夫	各学年「一年間の振り返り」や教材ごとの「学びの記録」を配置し、自らの道徳的成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。
	教材ごとのねらいやテーマの掲載状況	教材には課題マークを提示して、何を学ぶのが一目でわかるような工夫がある。学習のねらいを明確に把握させることによって、問題解決的な学習を展開できるようにしている。
	教材ごとの展開における発問の掲載状況	教材末に「学びにむかうために」というコーナーを設け、ねらいの「ぶれない」授業のために、基本、中心、後段の発問を提示している。
その他	その他の特色	